

地域懇談会意見まとめ（妙見坂小学校区）

1 事前アンケートより

現状	強み
<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の担い手不足や、空き家が増えていることに不安を感じている人が多い 福祉への関心が低い人の理由として、福祉活動等をしたことがない、自分が何をすればいいかわからない、という回答が多い 情報提供・活動費の補助（交通費等）があればボランティア活動が行いやすいという回答が多い 安心して暮らせる地域には災害時や治安、高齢者への支援が重要だと考えている人が多い 公共交通やインフラ整備など住みよい環境に関することへの満足度が低い 忙しくて時間が取れないこと、健康に自信がないことが地域活動への参加の支障となっている 友人・知人、隣近所など、周囲の人に相談したり手助けを求めている人の割合が減っている 福祉に関心があるが、何をすればいいかわからないという人が多い ボランティア活動をしたことがある人は3割程度で、活動に関する情報提供を多くの人が望んでいる 犯罪をした人の立ち直りへの協力したいと思う人が少ない理由として、接し方がわからないという人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは8割弱の人が居住地区を暮らしやすいと感じており、住み続ける予定という人も7割程度いる 町内会や自治会へ加入している人の割合が高く、近所づきあいや地域活動への意識が高い 参加や手助けができると思う活動では、地域美化活動・災害や防災対策・日常生活支援の割合が高い 福祉に関心がある人については、特に高齢者に関する福祉に関心が高い 隣近所の交流やあいさつなどの声掛けなど、地域のつながりに関する項目への満足度が高い 地域への参加意識や高齢者・認知症に関する福祉への関心度が高い 子どもに関するボランティア活動・助け合い活動の経験がある人、関心がある人が多い 地域の行事やまちの清掃活動といった地域での交流に関する満足度が比較的高い 成年後見制度や再犯防止に関する制度等の認知度が上がっており、啓発活動の効果が見られる 福祉に関心がない人でも、居住地域での地域美化活動や災害・防災対策には参加できると答えている人が一定数いる

2 あったら良いな・できたらいいな

「あったら良いな・できたらいいな」としていただいた意見の内容を整理しました。

地域のつながりと見守り	<ul style="list-style-type: none"> おりひめ支え愛プロジェクトの有効活用 →自治会で取りまとめをしているが、本来必要な人に行き渡っていない。 独居高齢者の緊急通報装置は使い勝手が悪いと不評 昼間だけ一人の老人の中には介護認定の方法がわからない人もいる。 →このような人を支援に結びつけていくために何ができるか 子どもの見守隊の高齢化が進んでいる。 男性の社会参加（活躍）の場づくりが必要
地域のつながりと困りごとを抱える人	<ul style="list-style-type: none"> 困っている人ほど何も言っていないためその悩み事をどのようにキャッチするか。 ある方を地域包括支援センターから見守ってほしいと依頼されて何度も行ったが留守だった。よくよく話を聞くと施設に入られたとの事。情報がほしかった。 同じく見守り対象の方の家に行くとヘルパーさんが来ていた。情報がほしかった。 集会所でサロンが開催されても高齢のため足が痛いなどの理由で外出できない。 地域の中でのつながりが少ない 担い手の高齢化でふれあい喫茶の運営が難しい 集会所が少ない→集まれる場所が少ない おりひめバスでカバーできない範囲の外出支援が必要 個人情報や壁となり困っている人の把握や支援が難しい
地域のつながりと安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 見守り情報の明確化 災害時に助けがほしいと手をあげた人（おりひめ支え愛に書類を出した人）のみを助けるのか、手をあげてない人はどうしたらいいのかわからない。
地域で育ち地域を愛する（郷土愛）	<ul style="list-style-type: none"> 放課後のフリースペースやあいさつで子どもたちと顔見知りになる 大人も子どものコミュニティに飛び込む 子どもの元気な声を聞きたいが返事がない マナーがよく悪い子はいない

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの遊び場（体を動かす場所）があったら良い ・ ユニフォームなど身分を示すものがあれば良いが個人であいさつするのは難しい ・ 昔は良かったが、今は見守ることしかできない→限界あり ・ 自治会がすばらしい ・ 食を通じて子どもとふれ合いたい。 ・ 子どもに野菜を作ってもらう→食べる体験 ・ PTAにも活動に参加・協力してほしい。 ・ 学校のグラウンド開放 ・ 会館でお茶・昔遊びをしている。 ・ 関心のない親子に届けたら良いのか。 ・ 夏休みに子供達が自分で自分のお昼ごはんをつくる ・ 中学校のPTAが無くなった ・ 若手に地域に目を向けてもらう ・ 教育現場で福祉の学びを取り入れてもらいたい。→先生にお願いするのではなく、場をかりる→4年生手話の実績→例) 参観の時に出席講座※ただし負担のない範囲
<p>地域に住む人・働く人の強みを活かす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の交流（どんな人がいるかをお互いを知る場）が大事 ・ 地域の人が学校の参観に参加できたら良い。 ・ 個人の得意な事を、子どもに伝えられたら良い ・ 子どもとの懇談会 ・ 校区福祉委員会の予算が増えれば嬉しい。 ・ 他団体を巻き込む ・ 協賛事業として地域の行事に関わる ・ 小学生も参加できるサロン→共生型サロン

3 これからできそうなこと

「あったら良いな・できたらいいな」の意見を踏まえ、自分たちが「これからできそうなこと」としていただいた意見の内容を整理しました。

地域のつながりと見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準公共みたいな立ち位置の校区福祉委員にも困っている人の情報がほしい ・ 本人からのアクションがないと介護認定は受けられない →年に1回地域の人、市の福祉の人が一緒に訪問してほしい ・ 先生たちとの懇心会をぜひやりたい ・ 校区福祉委員会として登下校の見守りをする。 ・ 子どもたちと退職した方々との交流の場 →木工など男性が得意としている分野での協力を募ると男性も出やすい。 ・ スキルを生かす。
地域のつながりと困りごとを抱える人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声かけをする ・ 掲示板にサロンのチラシを貼って周知する ・ 地域包括支援センターとの連携強化→フィードバックがほしい ・ 地区のマージャン大会 ・ SC（シニアクラブ）大阪からの補助金を使って何かするにも指導してくれる人が、. ・ 3軒隣で仲良く。 ・ 各班長に困りごとなどについてのアンケートを配ってもらう。 ・ 地域のサークル活動、自治会活動、校区福祉委員会の活動をわかりやすく広報 ・ 地域のラインを作る ・ おりひめバスでカバーできない範囲の外出支援を市に提案してほしい →地域住民（組織）が運営主体となった自家用車による有償送迎サービス →利用者は運営主体に500円支払う+市から往復400円（片道200円）の補助 →1件につき運営主体に900円の収入が入る仕組み ・ ライドシェアが四條畷では始まっている
地域のつながりと安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しいことをたくさんする
地域で育ち地域を愛する（郷土愛）	<ul style="list-style-type: none"> ・ つながりを深める ・ 小学校との連携→地域の人々との協力ができればいいな。 ・ 地域住民の思いを学校などに伝える。 ・ 学校のグラウンド開放→裸足で遊べるよう芝生を植える。 ・ 色々な目で見守ることが大事（子どもも高齢者も） ・ 参加しやすい地域活動を考える ・ 負担を減らした楽な自治会への道 ・ 協力者、支援者を増やす ・ ボランティアの方々への協力
地域に住む人・働く人の強みを活かす	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域交流会→飲み会、食事会→地域の懇談会をする ・ 運営側も楽しめるイベント作り ・ 子ども巻き込みでのイベント ・ 校区福祉委員を巻き込みでの新しいイベント作り ・ 共働（事業）→金の使い方（少額予算） ・ 孤独、孤立対策強化月間の活用→こういったことをきっかけに人とつながる。 ・ あいさつ！！声かけ！！回りの人へ興味を持とう。